福祉と住環境を考える

ふくてっく

2011 年 12 月
第 81 号
特定非営利活動法人
ふくてっく

559-0034　大阪市住之江区南港北 2-1-10　ATC・ITM 棟　11Ｆ　ｴｲｼﾞﾚｽＬ
TEL　06-6614-6800
mail@fukutech.sakura.ne.jp　http://fukutech.sakura.ne.jp./

～今年は『力強い活動を！』を合言葉に～

平成二十三年は、三月に発生した東日本大震災という大きな災害があり、忘れる事の出来ない年となりました。

私共「ふくてっく」も必要とされる支援を微力ではありますが、これからも取組んでいきたいと考えています。

一方、女子サッカー「なでしこＪＡＰＡＮ」が世界一になった事等、被災地で避難生活等をされている方々にも元気を分け与える様な嬉しい出来事もあり、巷では「がんばろう、日本！」が合言葉となりました。

そんな激動の本年、「ふくてっく」は平穏に節目の第十回定期総会を八月に開催し、会員方々の協力もあり無事に終える事が出来ました。

総会では例年通り会全体と各部の活動報告・収支報告が行われ、部会によっては前年より活動機会が減少した所もあり、これからの活動方針を見直す事も考えなければならないという分岐点となっていますが、その他の部会に関しては例年通りの活動で安定しているといえます。あえて書くとすれば会として新たな活動への試みに着手出来なかった事が一つ悔やまれる事かと思われます。

安定した活動は法人決算としても結果が現れ、会員みなさんと関わる方々の協力もあり、何とか少額ですが今後の活動費を捻出する事が出来ました。そして、実際の活動について二十三年度の活動計画・予算計画も報告され、会としてまずは内的にはふくてっくの根幹である「部会活動の充実（活性化）」（広報も含め）と「定例会の充実」（交流機会の場）に重点を置き、社会との関わりを増やす事を目標にします。一方、社会ニーズに対するアンテナを外部に張り巡らし、情報をキャッチする、または発信する事にも注視し、その為にも他団体を含め、多方面にわたる人々との関わりを深めたいと考えています。

各部会計画はこむねっと事業部会が再開し、その他の部会も新たな試みに着手する旨の報告があり今後が楽しみな一方、予算計画では例年以上の頑張りが必要な結果が報告されました。このままを継続していても会運営は辛くなるという事は明白、心豊かなボランタリー活動と事業活動という新たな住み分けを考えていく必要性を示唆する報告となりました。

この様にふくてっくは安住に落ち着くことなく、どんどん新たな取組みにチャレンジしていく必要があります。その体制について、二十三年度は理事・監事改選の年度であり、先の理事会決定事項として理事七名、監事二名の候補が報告され、理事は約半数の四名が新任となり留再任三名、監事は二名の留再任が決定しました。今後はこの新執行部がふくてっくを引張っていきますのでよろしくお願いします。

新執行部が第一弾の取組としてロジックモデルを作成しました。その目的としては会の目標、方向性をはっきりさせる事が挙げられ、節目毎の見直しを行いながらも最終着地点を認識し、共有しながら邁進出来ればと思っています。活字にした事で再確認も含め認識しやすくなったのではないかと思っており、最終目標に至るまでのプロセスは色々あるでしょうが結果として、みんなで同じ所に立っていたいと思います。その目標に向かって会員が動きやすい様、明解な執行部作りも大事であり、これまでの横並び（役割共有）の理事という形態はとらず、各理事に担当を担ってもらう事としました。新たな取組みについての提案、または改善や疑問点など、すっきり風通しの良い執行部と会員の関わりを構築したいと思います。

社会は日々変化しており求める物も変わっていきます。ふくてっくも進化し更なる『飛躍』を目指しての第一歩としての取組みにご協力頂くと共に、これまで通り、歩みを止める事なく変化し続けるふくてっくにご期待頂き、今後どの様な形に変貌していくかをお楽しみに。

（理事長　小川忠雄）

執行部体制

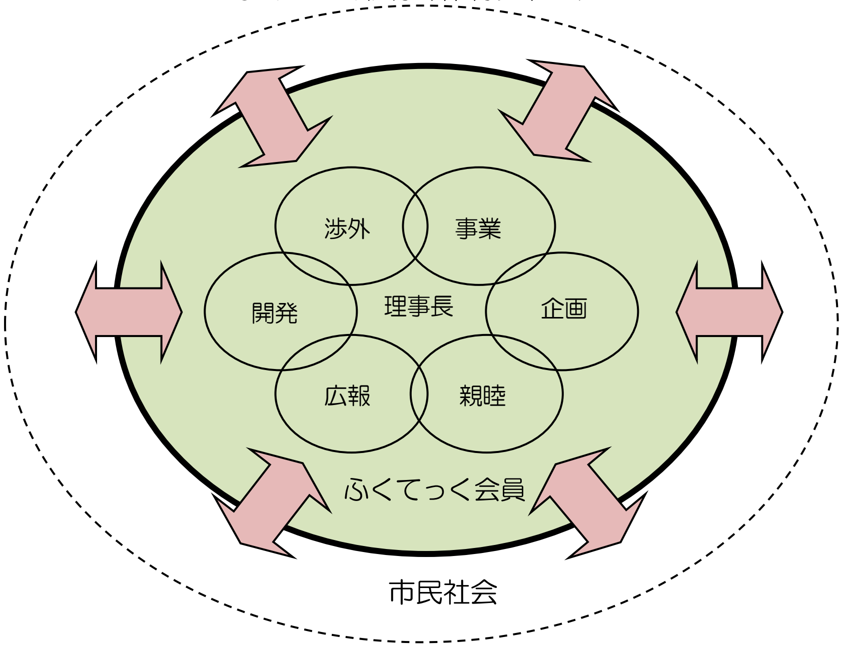
ふくてっくは、二十三年度から執行部体制を一新しました。平成五年に福祉機器・住宅研究会として発足して、間もなく二十年を迎えようとする中で、発足当初のミッションは次第に社会の求めるところとのズレを生じ、またメンバーの入れ替わりや高齢化などもあり、さすがのふくてっくも、その目指すところ、そしてその手法など、あらゆる部分を総点検すべき時期が来たということです。

改革の第一は、目標をはっきりさせること。そしてその目標に向かって、今後何をすべきかを考え、その意思と方針を共有すること、さらにはそれを内外に明らかにすることでした。

目標が定まれば、組織は動きださねばなりません。そして執行部はその運営責任を負うものです。しかしながら、会の活動は執行部だけで取り組むものではなく、まして当会は会員の自発的な意思を最大限に尊重する集いです。そこに難しい舵取りが求められるのです。

新執行部は、いわゆるボトムアップ、会員の隅々からの声が上がるのを待って方針を決めるという「待ちの手法」を改め、率先して動く途を選択しました。その一方で、決して会員に方針や活動負担を強要することなく、辛抱強く且つ強力に意思表示をして、自然な求心力を発揮して、会を活性化しようとしています。理事長を中心に、六名の理事は、それぞれ担当する役割を明確に表明することにしました。

ふくてっく執行部体制チャート



理事の役割

はじめに、あらゆる活動の基礎は親睦です。

親睦担当理事は、会員間の融和を図り、特に入会間もないメンバーに当会の理念や基本方針などを正しく周知させつつ速やかに会に馴染ませることを担います。また、ひとりひとりのメンバーに気を配って楽しく、でもただ楽しいのではなく、誰もが主役となって認め合う関係性をつくるのです。

開発担当理事は、そもそも物づくりが基礎である当会の理念の核心であるところの「専門職能と市民目線」の融合を目指します。すなわち、高度に洗練された専門職の知見をフル稼働しつつ、ありがちな専門職の狭い観念に陥ることなく、市民の「あたりまえ観」を最前線においた物づくりを目指します。

企画担当理事は、一つ所に安住せず、多岐に亘る問題意識に満ちた当会にあって、奇跡的にであった得難い仲間の思いや資質を見極めつつ、創造的な企画の提言と組み立てを司ります。

そして事業担当理事は、そうした新規事業・単発事業を含めて、当会が推進する諸活動の健全かつ果敢にチャレンジする運営を統括します。

渉外担当理事は以上の、あらゆる面において、当会および当会メンバーが外部に向けて発信しようとする際に、その魁けとして諸方面との連携を深め、また社会の課題やニーズを発見して会に持ち帰る、「つなぎと開発」の任に就きます。

最後に広報担当理事は、以上のような新体制の目指すところを確実に「文書化」し、これを内外に発信して行く。

そうすることによって、ひとつひとつの動きを「流して」しまうことなく、着実に積み上げてゆくことを担います。

当然のことながら以上の各役割は、どれもが密接に関連しています。バラバラの六因子ではなく、一体物の六通りの切り口と言えます。そうして、その一体物が新体制のふくてっくそのものなのです。

ふくてっく ロジックモデル

新執行部が最初に手掛けた仕事は「ロジックモデル」でした。

ふくてっくが目指す最終成果とは何だったのだろうか。それを達成するためには、五年先、三年先に何を実現しておかねばならないか。それには何に取り組まねばならないか。そしてそのためには、この一年、二年で何を達成すべく、どう取り組む必要があるのか・・・、を考えることでした。

そうして定めた、ふくてっくの目指す最終成果は、「人を尊重し、手をつなぎ合える社会」です。その過程で、会員は最高の自己実現を享受することができる。そして各自の自発意思において、ポジティブな人生を体現し、すばらしい仲間との出会いを喜び合う。そんなふくてっくを目指しています。

自然人は年老い、やがて召される時がくるでしょう。しかし、組織は人から人に繋がることによって、永遠の命を保つことができます。新たな展望を得て若がえることができるのです。

確かに、先のことはわかりません。しかし、諦めていてはなにも進まない。夢を追って、思考と努力する中でこそ、今この時を自分のものにすることができるのです。

ともあれ、これからの社会は私たち市民が責任を持って担わねばなりません。ふくてっくはそうした文化を育み、これを次世代に伝え続けて行きます。

（事務局長　中北　清）

新役員

「理事」
- 小川　忠雄（理事長）※
- 杉浦　史郎（親睦担当）※
- 苅田　保志（開発担当）※
- 清水　麗子（企画担当）
- 畑　俊治（事業担当・副理事長）
- 中北　清（渉外担当・事務局長）
- 和泉　秀子（広報担当）

「監査」
- 秋岡　安（財務担当）※
- 稲住　泰弘（事業担当）※

※印は再選任

学習会トピックス

近代ボランティアとNPOの歴史

講師　牧口　明

この三年ほど、大阪ボランティア協会の前理事長岡本榮一先生を中心に取り組んできた「ボランティア・市民活動史年表」作成に携わって学んだことなどについてお話ししたい。

ボランティア・市民活動を十四の分野に分け、①全国的な活動 ②先駆的な活動 ③活動に影響を与えた書物や法律 ④関連する国際的活動、の四つの視点で、できるだけ直近のものも含めて九千四百余り（重複カウント有り）を収録したが、多くは戦後の七十年に集中している。市民活動・V活動は、戦後のものなのだと改めて実感した。

ボランタリズムの四つの類型について話したい。

「ボランタリズムの四つの類型」

一、抵抗のボランタリズム。人は弱く、いつも苦難から逃れたいとするものだが、いよいよ逃げられない時の命がけの抵抗を支える精神だ。例えば足尾銅山鉱毒事件や水俣病など多くの公害との闘い。

二、連帯のボランタリズム。現在のボランティア活動の多くはこれに当たる。隣人の窮状をみて、放っておけないという思い。例えば、足尾銅山鉱毒事件を告発した田中正造氏は、被害当事者ではなく、名主の出身として百姓（自分の仲間）の窮状を捨て置けない責任感に駆られて行動した人だ。

三、統合と共生のボランタリズム。インクルーシブという概念は、障がいを特別視せずに、あらゆるものを包み込んで行く思想だ。七十六年に始められた「誰でも乗れる地下鉄を作る」運動。当初は全く相手にされなかった。こうした運動がボランティア活動に当たるのかという議論まであった。その中でサービスを提供するだけではなく、社会を変える運動も重要なボランティア活動だとの主張が、ちょうど高齢化社会という時代背景もあって、共鳴を得たものだ。共生の概念も、人間だけの共生ではなく、人と自然、人と動物の共生に発展してきた。

四、創造のボランタリズム。自分たちの生活により利便性を生み出したり、精神的な潤いを生み出して行く活動である。例えば、時代祭（京都）は、一八九五年（明治半ば過ぎ）に平安遷都一一〇〇年を記念して市民が始めた活動だった。こうした例は、戦後のうたごえ運動（一九五〇～六〇年代）や子ども劇場などにも見ることができる。

以上少し固い話をしたが、取り組んでいるといろんな発見があって、苦労の中にも楽しさがある。

五、歴史書の記述は結構「いい加減」である。歴史の本をひもといていると、結構いいかげんなのだ。明治五年十二月三日に陰暦から陽暦に変わっているが、それ以前の記述が陰暦に依るのか、陽暦に換算したものなのか、また例えば法律の制定期日は衆・参いずれの裁決日か、あるいは法令公布の日なのか、団体発足の日は何をもって言うのか、海外の出来事は現地の日時に依るのか日本時間なのか、そうしたことを厳密に取り扱っていたのは岩波の「近代日本総合年表」くらいなものだった。

六、歴史は続いている。足尾銅山鉱毒事件は一八七八年（明治十一年）からとされている。渡良瀬川の鮎が大量死するが、なかなか原因を特定できない。しかし、地元では早くから認識されていた。一八九一年に田中正造氏が初めて国会で取り上げて社会問題化するが、田中正造氏がなくなった一九一三年頃に終わったと思われている。しかし実は未だに続いているのだ。先の震災で決壊した貯水池（源五郎沢）に溜まっていた鉱毒が流出した。足尾銅山は一九七三年に閉山したが蓄積した鉱毒は残っていたし、精錬事業はその後も続いていたので、地元では闘いの歴史は継続していた。特に、群馬県側の運動はずっと続いていた。また、水俣病についても、一九五六年五月一日が公式確認の日とされているが、実は水俣の水銀中毒は大正の末に既に出ている（人は死んでないが、魚が死んでいる）。このときも漁業関係者への見舞金が出ている（責任は、はっきりしないまま）。このように、何事も歴史書に記載された出来事の前後に拡がりがあって簡単ではない。

以下は、こぼれ話の類になるが、

A、日本のウーマンリブの活動で有名なのは、田中美津氏達のグループだが、こうした二十代独身女性を中心とするグループとは別に、ウルフの会があった。前者に比してやや年長で、仕事も持つ女性のグループだが、そのメンバーに村上節子氏がいた。彼女は日本テレビのアナウンサーで、結婚後も働き続けた第一号女性であり、出産後も働き続けた第一号女性だ。その後、CM制作部門のプロデューサーになって「あなた覚醒剤やめますか人間やめますか」の有名なコピーを生んでいる。その夫となるのが実は田原総一朗氏。田原氏は資料整理が不得意で、これをちゃんと整理をして支えたのが彼女だ。会社も興して、社長として田原総一朗氏のマネジメントを仕切った。

B、日本で初めて発行されたウーマンリブ運動に関する冊子「女性解放運動アメリカ版」の翻訳者のひとりに中村敦夫氏がいる。彼は俳優だが、もとは東京外大の出身。翻訳の前にアメリカのバークレイに滞在していたが、ここは有名な障がい者運動発祥の地であり、フェミニズム運動も活発であった。現地でそうした空気を十分に吸収して帰国したタイミングに合ったのだろう。

C、同潤会は関東大震災の後できた財団で、義援金の中から一千万円、今の価値に換算すると三百億くらいの基金で設立された。財団が作った復興住宅が同潤会アパートである。当時の建築物として超近代的設備を整えていた。これに比して今の仮設住宅はなぜあのように貧弱なものしか作れないのか。

（記録　中北　清）

ずーっと続けてく被災障害者支援

東北⇔関西ポジティブ生活文化交流祭

十一月二十三日（水・祝）十一時～扇町公園と山西福祉記念会館を会場に、交流祭が開催されました。

山西福祉記念会館では、「三・十一東北・関東大震災そのとき障害者は・・復旧ではなく復活をめざして」をテーマに、被災地の報告がおこなわれ、一方扇町公園は、メインステージでは、歌や踊りで盛り上がり、関西の作業所や有志が作る野菜やさをり織等の店、旨いもの店等、約五十店のテントが並び、にぎやかにおしゃべりし、楽しめる交流がありました。

ふくてっくは、岡会員の協力のもと、「すべらんうどん」の店をだしました。途中雨が降ってきましたが、傘をさしても並んでくださる人、テントの雫が車椅子や服に落ちてきても不満言うことも無く、食べてくださった人、この祭りに集まった人々の温かさで、心地よい一日となりました。

（清水　麗子）

天満宮でお馴染みの
「すべらんうどん」です！
スリットの入った美味しいおうどん
召し上がりませんか

参加の皆さん、よく働きました。ほぼ七時間、たちっぱなしで翌日は足が痛かったと思います。久し振りにふくてっくの団結力を感じました。うどんはほんとによく売れました。最後、本部にあいさつに行ったとき、「すべらんうどん、食べたかったんですが、いつも長い行列であきらめました」とのことでした。

（畑　俊治）

シナリオが、なくてもなんの、よどみなく、
ちーむわーくは、いつものように

わし、うどん屋としてもやっていけるんとちゃうんやろか？
（大塚　裕司）

本当にお疲れさまでした！これで「すべらんうどん」がまたまた広がりました。忙しい思いをしましたが、大盛況で何よりでした！
（松田　美代子）

ぎょうさんの人が、あんなもん食べたり、こんなもん売ったり、お祭りって大好き。
（和泉　秀子）

小雨でも、行列やめず、うどんを食べて楽しみ顔、素晴らしい
（稲住　泰広）

きつねうどん
１杯３００円
乾麺１箱(４人前)
１０００円
ＣＤまいど！おばちゃん　７００円

高校の文化祭を思い出すことができ、とても楽しい一日でした。(^o^)
（曽我部　千鶴美）

CDは　(^_^)/~！！

天満宮でおなじみの・・・

すべらんうどん

切込みが入り、とっても食べやすい！
つゆがよく絡み美味しさ満点

東北⇔関西ポジティブ生活文化交流祭
11/23（祝）11：00～18：00

NPO法人 ふくてっく
高齢になっても、住み慣れた地域で暮らしたい。
障がいがあっても、安心して生活したい。
高齢者や子どもたちと一緒に物づくりがしたい。
・・・いろいろな「したい」を一緒に考え、
実現することを目指して活動しています。
ホームページ　http://fukutech.sakura.ne.jp/
TEL 06-6614-6800

まいど、皆様のおかげでうまくいき、ホッとしています。
感謝
（岡　道信）

「ねぇ～オンマ！このうどん美味しいなぁ～」と四歳のちびが嬉しそうに食べていましたよ。　（島村　英子）

午前中のみの参加ですがチラシ配りに頑張りした♪
（山本　尚子）

ひさびさに　イベント楽し
ふくてっく　はたらくきみと
○○○○のぼく
（中北　清）

「すべらんうどん」
何より大盛況、
よかった よかった。
「ス」素晴らしい
「べ」別格や
「ラ」ライバルなしや
「ン」ん（運）もよくなる
（池端　一義）

楽しかった！
御揚げが大きいし、
おうどんも、料理酒も
美味しかった。！
（春岡　須磨子）

私はお昼からの参加となり、到着した時は既に大盛況でした。そして朝から参加のみなさんのチームワークの良さにびっくり！テキパキと切り盛りされていました。さすが、『ふくてっくメンバー』お祭り事は好きやなぁと感心した次第です。
（小川　忠雄）

住之江区社協『さざなみ』

十月十九日（水）と二十四日（月）の両日にわたり社会福祉法人大阪市住之江区社会福祉協議会「さざなみ」主催で高齢者対象の「閉じこもり予防教室」が行われ、ふくてっくに木工教室の依頼がありました。

両日は十三名と十四名の参加をいただき「フクロウのエンピツ立て」の組立てを行いました。

指導する我々も結構老人であり、総員が老人という集まりで楽しい作品作りとなりました。皆さんにお会いし挨拶をしますと「この前の時もあなたでしたね！」と笑顔の出迎えを受け大変心地よく楽しい木工教室になりました。

今回のフクロウのエンピツ立ても昨年に引き続き評判が良く、皆さんの口からは「フクロウの顔がとってもカワイイ！」と心より喜んでいただきました。

終了後、精一杯上手に作ったエンピツ立てをみんな持ち寄り写真を撮り、お互いの労をねぎらいました。

また、来年のお会いできる日を楽しみに「さざなみ」木工教室は終了しました。

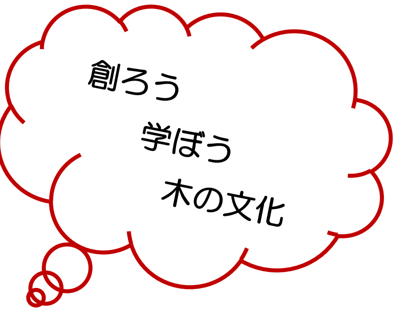
『日立チェーン・ストール合同展』

十月二十九日（土）と三十日（日）の二日間、梅田センタービル・クリスタルホールでこども木工教室を行い、自然木を活用した「ペンダント」と「ストラップ」の作品づくりをしました。

この展示会は電気店さんが合同でお客様を展示会場にご招待し商談をするかなり規模の大きい展示会で、ある電気店さんのお力添えで我々木工部に声がかかりました。当日は土曜日と日曜日であり親子づれのお客様もかなり多く、子どもたちに準備したペンダントとストラップの作品は非常に喜ばれました。おかげで目標数を大きくクリヤーし、予備に持参した作品を残すことなく二日間を終了しました。

これで電気店さんの商談も上々であれば私たちにとっても最高の幸せでお手伝いの甲斐があったといえます。

これからも皆さんに喜ばれる木工づくりをしていきたいと思います。



『池島ふれあいまつり』

十一月二十三日（水・祝）今年も相変わらず大賑わいの港区池島公園で行われた「池島ふれあいまつり」の木工教室、多くの子どもたちと保護者。

ふくてっく木工教室は毎年「自由木工」を基本に子どもたちにノコギリ、カナヅチの使い方を指導しながら自分たちで何かを独創し作り上げるを目的にすすめております。でも、子どもだけではなく大人も結構カンカンになって取り組んでいる姿を見ますとふくてっくメンバーも一緒だなーといつも思います。

おまつりは毎年参加者が多く、今年も一万五千名以上のようです。当然木工教室も大賑わいで入場制限ひっきりなしです。およびいただいている社会福祉法人海の子学園からは来年もぜひよろしくお願いしますの言葉をいただき、我々もまたガンバロウを胸に会場を後にしました。

（西川　朋生）

研修部会

月に一回のぼちぼちペースで大阪市社会福祉センターの一階受付前のスペースをお借りして苅田さんに講師をお願いして初心者向けのパソコン教室を『みんなで触れば怖くない！』をモットーにやってます。

参加費は資料代込みで五百円です。持ってるパソコンもばらばらで、各自超マイペースではありますが、わいわい、がやがや、賑やかに、楽しみながら学んでます。

（鎌田　伊津子）

いつも五百円でいろんな事を教えてもらえるのでずいぶんお徳で満足しています。
皆でぼちぼちがんばってます。　（有馬定夫）

こむねっと事業部会

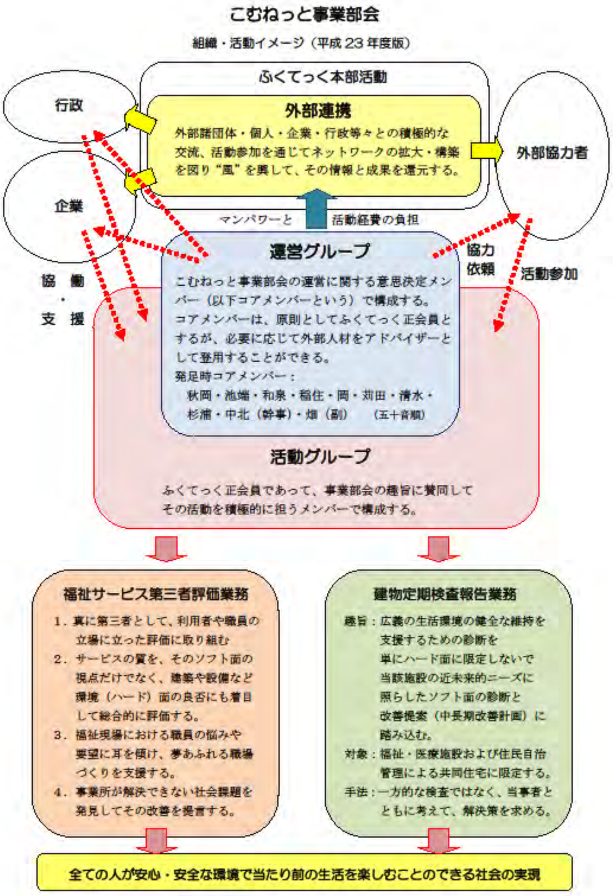
こむねっと部会は、２００３年に「おおさかすまいコムネット」と題するＣＢ企画の呼びかけが発端でした。以来、その活動は「大言壮語」、かけ声は勇ましく、歩みは遅々たるものだったかもしれません。しかし、ふくてっくにコミュニティビジネス概念を導入し、それまでのボランティア活動の殻を破る契機を創ったと自負しています。展開の経過で取り組んだ、東大阪市からの委託業務も独立した活動に仕立て上げ、今やふくてっくの屋台骨を支えるまでに成長しています。部会自身も、その後は福祉サービス第三者評価というテーマに出会い、新たなミッションを見出しました。福祉環境を向上させる趣旨は、ふくてっくの理念そのものだからです。しかし、これがなかなかに難題でした。思うように活動機会を得ることすらおぼつかない。当初は意気込んで参画したメンバーにも次第にトーンダウンしてしまう傾向が見られたことは無理からぬことかもしれません。そんな中で、部会の推進を司る立場としては、焦りと寂しさがありました。

自発（ボランタリー）の精神はどこへ消えた！
二度に亘って、もうこんな部会はやめます、と宣言しました。でもそのたびに思い直して再起してきました。もう、ええかげんにしなさいという声が聞こえます。

この度、性懲りもなく、三度目の発足です。今度こそ本気で、しかし過去のようなつまらぬ拘りは捨てて取り組むことにしましょう。

こむねっとは、その語源が示すようにコミュニティ・ネットワークですから、外部連携が命です。ふくてっくの基盤を大切にしつつ、それには拘らない拡がりを求めて行きます。それを「脱ふくてっく」と言うならそれでもいい。しかし、今こそふくてっく自身が脱ふくてっくを図るべき時ではないか、というのが当部会の信条なのです。

継続の体制に継続はない。革新にこそ継続があるという信念です。建設的な飛翔は「協調と革新」です。新こむねっとは、発足以来の、熱くそしてどこか空しい思いを糧にして、いよいよ正念場に向かおうとしています。
もう、迷いはありません。



福祉サービス第三者評価はどん底の状況を脱して、光を感じています。評価機関連絡会代表幹事機関として、第三者評価事業そのものの振興にも尽力します。

一方の建物検査と中長期の環境保全コンサルティングは、医療・福祉事業がハード面で機能麻痺に陥る状況の打開が急務な中で、緊急性が疑う余地のないミッションです。この二局はいずれ統合して大きな事業に育てることを目指しています。益々多くの個人・団体との連携が欠かせません。
心躍る会、こむねっと事業部会にようこそ！

（中北　清）

福　祉　用　具　部　会　　歩行補助具のデザインコンセプト

昨年 11 月に脳梗塞で倒れ入院生活をせざるをえなかったが、5 日間は絶対安静期間で点滴は離せなかった。ところがこの点滴台にすごく不満を感じた。トイレへ行く時は杖代わりに押していくのだが、安定が悪くトイレ入り口のグレーチンングやタイルの所へくるとガタガタと振動して移動しにくい。看護師さんに安定感のあるものに変えてもらったが、それでも満足のいくものではなかった。そこで次の様なコンセプトの点滴台が出来ないかと考えてみた。

1．安定感のあるもの　　2．走行しやすいもの
3．音の静かな、段差をクリアーしやすいもの
4．デザインの良いもの

その結果、室内用歩行補助具として使用でき、点滴台としても使用できるデザインを考案した。キャスターは音の静かな振動吸収の出来る「R２車輪」を使用し、本体は軽くするためアルミ又はマグネシウム合金を使用する。高齢者にやさしく、病院などの使用にも適したものになると思われる。

（杉浦　史郎）

住　環　境　研　究　部　会　　住宅改修の依頼

久し振りに今年９月、住宅改修の依頼がありました。依頼主は天王寺区にお住まいのＨさん。６９歳、女性、聴覚障害者。１歳のとき、聴覚を失ったとのこと。主な改修内容は４階建ての建物の１階から屋上（物干し）までの階段手すりの取替えと階段室の床改修です。

問題は打合せ。どのようにコミュニケーションをとるか。筆談しかないかと思っていましたが知り合いの女性で手話通訳ができるのを思い出しました。

さっそく彼女に手話通訳を依頼するとこころよく引き受けてくださいました。おかげで４回にわたる打合せが順調に進みました。たぶん筆談では意思疎通がうまくいかなかったとつくづく思いました。

Ｈさんも手話通訳者といっしょに打合せに伺うのをたいへん楽しみにされていたようです。改修打合せのあとも、手話通訳の彼女といろいろ話しておられました。

常日頃、話せる相手がなかなかおらず、寂しい思いをされておられるのを痛感いたしました。帰るときには、いつもいろんなお土産をいただき恐縮しました。

手すり取替えの介護保険申請では、区役所担当者と何回にもわたる協議で大変でしたが、１１月に無事、工事が終わり、とても喜んでいただきました。

喜んでいただけることが、私達が最高に報われることです。

（畑　俊治）

東　大　阪　部　会　　住宅改修ワンポイントアドバイス

『開き戸を
アコーディオンカーテンに変えると、
開閉操作は楽になる！？』

・がたついて開けにくい！
・有効開口巾が狭くなり、
　通りにくくなった！
・トイレの場合、
　音の問題・臭いの問題・・

安易に計画せず、デメリットについても検討が必要です。

開き戸の開閉操作は扉の横に手すりを設置することで、改善されることもあります。

『玄関扉付近の段差解消』

玄関先では、鍵をかけたり、立ち止まっての操作が必要です。玄関扉を開けて水平部分無しに、すぐにスロープを設置すると、扉の開閉時に体が不安定になり危険です。

玄関扉前には、水平部分が必要です。

会員コラム

「ＬＥＤランプのおすすめ」

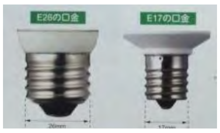
《すぐにできる省エネ・節電》　池端　一義

普段の暮らしの中で、あまり意識もせずに使っておられる「電気」。テレビ、エアコン冷蔵庫、照明などなど、その中で「照明」は全体の消費電力量の 16%を占めています。

今年の夏には福島原発事故の影響を受け、東電の電気供給量の問題から「省エネ・節電」が強く求められました。そして「省エネ・節電」の意識は環境問題への関心もあり、全国的に広まりました。

さて、今回は一般家庭において「すぐにできる省エネ・節電」というテーマで「照明の節電」についてご案内いたします。照明の節電は必要のない照明をこまめに消すことが大前提となりますが、ここでは無理なく快適性を損なわず、最も手っ取り早く出来る一押しポイントを紹介いたします。

ここで登場するのが「ＬＥＤランプ」。皆さんもこの２～３年前からＬＥＤ（ＬｉｇｈｔＥｍｉｔｔｉｎｇ Ｄｉｏｄｅ）のことはよくお聞きになっていることと思います。ご家庭ですぐに使える一番効率のよいランプと言えば「電球形ＬＥＤランプ」です。電球形ＬＥＤランプは、一般電球やボール電球、ミニクプトン電球などと比べて消費電力は約 1/6 と省エネ・節電になります。一般電球形は約 40,000 時間、小形電球形は約 20,000～40,000 時間と非常に長寿命です。点滅に強く、スイッチＯＮですぐに明るくなる等、長所が広く認知され、急速に普及拡大しています。更に、電球形ＬＥＤランプを使った場合の節電例を紹介しますと、廊下や階段、洗面所などに使われているダウンライト（60W形の一般電球やミニクリプトン電球）とほぼ同じ明るさの電球形ＬＥＤランプに交換すると、ワット数は約 1/5 となり、1 個あたりの消費電力は 80%節電できます。さあー、これでＬＥＤランプの優れている所はよくお分かりいただけと思います。さっそく、あなたのお家でも「ＬＥＤランプ」に交換して「省エネ・節電」を実感して下さい。



口金のサイズは？
一般電球やボール電球と同じ「E26」とミニクリプトン電球と同じ「E17」があります。

代表的な種類意をご確認ください

母校で 700 人の大合唱

「一粒の種」

佐久川 尚士

沖縄県宮古島出身のシンガー砂川恵理歌の「一粒の種」が子ども達の歌声と出会い「一粒の種～合唱～」が生まれ、今や悲しみの歌ではなく、希望の歌となりました。そして今年２月には、故郷宮古島で、それぞれの思いと共に集まった島民老若男女 336 人と一緒に収録した「一粒の種～真太陽の島の大合唱～」。一人の唄者の唄が「島の唄」になりました。今年四月には、これら全てと新しい彼女の魅力が詰まった待望のフルアルバムが発売されました。また、チャリティライブ Smile Seed Project も回数を重ね、10 月末時点でなんと 440 回を越えています。（第 123 回目はふくてっくで行われました。）440 回の中には、ふくてっく会員が関わった福祉施設等に加え、私の母校の小学校も含まれています。母校では在校生のみならず、卒業生や家族までが体育館に集まり、最後は 700 人以上の大合唱となり、人数だけは本家を大きく超えてしまいました。こういった活動を重ねて行く中で、今年は最大の沖縄ライブ「琉球フェスティバル」に初出演を果たし、やっと沖縄を代表するシンガーとして認められたようです。他にもここ数年大きな音楽イベントに次々と出演が続く中、10 月には友人達と独自に企画し、単独ライブを実現しました。食事とともに、映画の上映、生演奏でたっぷり 1 時間以上のライブと、さながらディナーショーのようで、彼女の成長を見続けてきた私たちの一つの夢が叶いました。ふと振り返れば、彼女の歌こそが一粒の種。これまで捲いた種は着実に実を結んでいます。そしてこれからも人々の心に種を捲き続け、どんな大輪の花を咲かせるか、私たちは見守り続けています。

「ある日のお客様との会話 ３」

秋岡　安

客：寄付金の税金が変わったって？

私：認定ＮＰＯ法人へ個人が寄付した場合、以前と比べて戻ってくる税金が増えるんです。税額控除というものが創設されて、寄付金から二千円を引いた残りの金額の最大五十％税金（所得税と住民税）が安くなるんです。もちろん、一定の縛りはありますが。

客：へぇー。国も思い切ったね。でも認定をとるのは難しいんだろう？

私：いえ今回の改正で認定要件も緩和されたんです。九つの要件があるんですが、最初の要件（ＰＳＴ要件といいます）に年間三千円の寄付者が年平均　百人以上だとＯＫという要件が新しくできたんです。

客：役員も寄付したら人数に入るの？

私：役員（理事、監事）からの寄付はカウントされません。さらに役員と生計を一にしている人からの寄付もカウントされません。

客：いろいろうるさいね。他に改正は？

私：仮認定制度というものができました。ＰＳＴ要件を満たしてなくても他の八つの要件を満たしており、所轄庁が承認すれば、仮認定を与えるもの。有効期間は三年。本認定との違いは、どちらも個人や法人が寄付した場合の優遇措置はあるが、仮認定には相続税の優遇制度とみなし寄付金制度はなし。でも所轄庁がどんな条例にするかまだ不明です。

客：本認定受けたら永久なの？

私：五年ごとに申請が必要です。五年間の実績で要件を満たせば次の五年間有効です。もちろん、不正など法令違反があれば途中でも認定を取り消されることもあります。

客：認定をとるにしてもとってどうするか、何に使うのか、いろいろ考える必要があるね。

私：そーですね。その点が一番大事ですね。

■　H２３年７月以降　学習会

7月　「ふくてっくロジックモデル」
講師：木村充枝
NPO 法人エフ・エー
はなまる介護ｻｰﾋﾞｽ
ｻｰﾋﾞｽ提供責任者

8月　総会

9月　定例会中止
暴風警報発令、定例会場は閉館の為

10 月「～福祉サービス事業の最新動向～」
講師：中北　清
ふくてっく理事・事務局長

11 月「近代ボランティアと NPO の歴史」
講師：牧口　明
(社)ライフケア協会　理事

12 月「障害者虐待の現状と課題」
講師：佐藤宜三郎
知的障害者入所厚生施設やすらぎの丘施設長
講師：中北　清
ふくてっく理事・事務局長

■　H２４年定例会・学習会予定

1 月 7 日(土)　13:30～16：30 頃
会場：　大阪市立社会福祉センター
・新年懇親会

2 月 4 日(土)　13:30～16：30 頃
会場：大阪市立社会福祉センター(予定)
・学習会
「言語聴覚士とは
　～その仕事と対象者について～」
講師：木原美喜雄　言語聴覚士

ことば・コトバ

【プロボノ】～職能を生かして社会貢献～

プロボノという新しいボランティア手法が注目されており、東日本大震災後日本でも広がりつつある。
「公共のために」を意味するラテン語「プロボノ　パブリコ」の略で、仕事で培った知識や技能を生かすボランティアのこと。2000年頃からアメリカで始まった。ボランティアとプロボノとの違いは、従事者の職能を生かすかどうかにある。まず狭義のボランティアは、従事者の能力を問わず「時間」（単純労力）のみを提供する。一方プロボノは、その人が自分の職業を通じて身につけた「職能」を提供する。

（和泉秀子）

◆外部連携◆

ふくてっくが福祉環境の向上に寄与して行く基本方針は「かぜになる」です。

私たちの活動は特定の課題や地域に限定せず、ある種の触媒になろうとするものです。社会を巡るかぜになることです。外部連携が使命線であることは自明です。それは我が為にする外部連携ではなく、かぜが吹く先で如何に価値ある存在になりうるかを問うものです。ふくてっくが何をなし得るか、ふくてっくらしい仕事をする機会をもらうことです。

以上の観点で、これまでの連携先との関係性を精査し、新たな連携の拡大を模索します。

・有ボ連においては、市民活動の主体的協働を目指している事が確認できます。今後様々な企画が実践されて行くことでしょう。

・大阪NPOセンターとの関係も、これまでの様な消極的な関わりを脱皮して連携を深めたい所です。

・先日、大阪市ボランティア情報センターから、地域人材育成事業の一環で、地域社会貢献活動団体を対象とするヒアリングを受けました。NPOに限らず、企業・団体の地域社会貢献資源を把握して、出会いと協働の仕組みを作る基礎資料にする主旨です。当会もこれに協力し、外部連携の新たな契機としたいと思います。

…事務局より……

★定期総会・理事会・
運営会議会　開催状況
七月二十三日（土）理事会
八月　六日（土）定期総会
理事会
八月　二十日（土）第一回運営会議
九月二十四日（土）第二回運営会議
十一月　五日（土）理事会
第三回運営会議

★東日本大震災の支援で、福祉用具「杖と靴（リハビリシューズ）」を送りました。（六月末）福祉用具供給協会経由で、現地の施設へ送られ、その後配分されました。

★リーフレットを改訂しました。

★定款・運用規定改訂します。

★十一月末現在の会員数
正会員　四十名
通信会員　五名

NPO 法人ふくてっくとは・・・・

ふくしとは
くらしを守る
てくにっく
つよーいみかたの
くろーと仲間

ふくてっくには、建築・医療・福祉分野の有資格その他、多岐に亘る専門職が参加しており、お互いの専門領域における見識と誇りを大切にしつつ、相互の研鑽しあう機会を育んでいます。

キーワードは「生活者の視点、当たり前の感覚です。」是非あなたも仲間になって、自らの人生を耕しませんか。一度、定例会（原則：毎月第 1 土曜日、13:30～　）にご参加ください。定例会では、会員の活動報告や講師を招いての学習会等を行っています。正会員以外の方が定例会に参加される場合は、参加費 500 円です。

＊会　費：入会金/無料
　　　　：年会費/正会員　10,000 円、学生会員　3,000 円、通信会員　500
＊連絡先：TEL　06-6614-6800
　　　　ホームページ　http://fukutech.sakura.ne.jp/
　　　　メールアドレス　mail@fukutech.sakura.ne.jp